

館長だより第16号(2020/2)

世の中では新種のウィルスによるインフルエンザが流行っております。和歌山でも患者が確認され、いよいよ身近なこととして、その予防のためマスクを着用した人の往来が目立つ今日この頃ですが皆様にはいかがお過ごしでしょうか？

さて現在風土記の丘では、1月18日から3月1日までの予定で、冬期企画展示「古墳から古代寺院へ」が開催されております。この展示は6世紀から8世紀後半までの時代の過渡期に焦点を当てて紀伊における古墳の週末から寺院への変遷とその歴史的な背景を、考古資料から読み解くものです。

具体的には第1章「古墳の終焉と岩橋千塚古墳群」では、岩橋千塚前山B225号墳、大谷山38号墳、大谷山13号墳、具足壺古墳群2号墳・3号墳出土遺物などを通じて考えます。

第2章は「紀伊における仏教のはじまり」です。『日本書紀』大化2年条に「凡そ天皇より伴造に至るまで造るところの寺、営りこと能わざる者は、朕皆助け作らむ……」とあり、こぞって氏寺を建立したとされています。紀伊の寺院については西国分廃寺、北山廃寺、最上廃寺、佐野廃寺をはじめ堂ノ谷瓦窯跡出土資料などから考えます。とくに北山廃寺は「御毛寺」ではないかともされており、多数の出土資料を実見していただきます。これらのほか14カ寺跡出土の遺物の展示も見ることができます。

第3章は「紀伊国分寺の建立と奈良時代の墓」についてです。聖武天皇によってはじめられた国分寺の制は、東大寺を中心として各地に国分寺、国分尼寺を造立し仏教国家を作り出したいという理想に燃えたものでした。紀伊国分寺関係の出土遺物、軒丸瓦や軒平瓦をはじめ鴟尾や塼、鬼瓦、緑釉土器などが集められています。

そのほか火葬墓については青木古墓、丸橋火葬墓、大同寺墳墓などの資料が展示されています。とくに大同寺墳墓出土の和泉砂岩で造られた石櫃の外容器は蓋と身からなるもので、その内部には青銅製の蔵骨器が収められていました。その青銅器の底部外面には「生」という文字が刻まれています。

3月21日(土)から5月10日(日)の予定で春期企画展示「埴輪と須恵器～きのくにの窯跡から見る古墳時代～」を開催します。古墳時代の代表的な焼き物である埴輪と須恵器について、それぞれ窯跡から出土した資料を紹介し、その製作技法や生産体制などについて考える企画です。

和歌山市平井遺跡2号窯跡出土の家形ハニワや和歌山市吉礼沙羅谷5号窯跡出土埴輪及び須恵器などを展示します。

紀伊風土記の丘では春、夏、冬の企画展示と秋の特別展示を開催しております。特別展示に比較するとやや小規模な展示ですが、企画展にしか表現できない試みもあり、十分お楽しみいただけるものと考えております。

皆様のご来館をお待ちいたしております。